

他称詞と述語にみられる待遇法に関する日韓対照研究

林 炫情・深見兼孝

林 炫情（日本学術振興会外国人特別研究員）
 深見兼孝（広島大学大学院国際協力研究科 助教授）
 広島大学大学院国際協力研究科
 日本学術振興会外国人特別研究員 林 炫情
 lim@hiroshima-u.ac.jp

1. はじめに

本研究では、日本語と韓国語の第三者に対する待遇法に関する対照研究の第一歩として、両言語の他称詞の類型・使用実態と述語に見られる待遇法が聞き手に応じてどう変わっていくかを実証的に明らかにし、それを相対的使い分けおよび絶対的使い分けという観点から検討することを目的とする。

2. 先行研究と問題点

日本語の第三者に対する待遇表現は、話し手と聞き手、話題の人との関係にもとづいて相対的に選択されることが多く、韓国語の第三者に対する待遇表現は、話題の人と話し手との関係だけでもとづいて選択される場合が多い。このような違いを断片的に取り上げると日本語の待遇体系は相対的使い分けで、韓国語の待遇体系は絶対的使い分けであるといえよう。従来、両言語における待遇法の使い分けに関する対照研究ではこのような違い、つまり絶対的使い分けと相対的使い分けの特徴を取り出すための研究が多く、実証的研究であっても絶対敬語と相対敬語の運用の視点から調査を行っている研究が多い。ところが使用実態をよく観察すると、韓国語にも課長のことを社長にいう場合など、第三者より聞き手に対してかなり高い待遇表現を示さなければならぬような場合は、話題の人に対する待遇を少しさしひかえることもある。つまり韓国語も場合に応じて相対的用法をし

ていることとなる。韓国語のこのような相対的な用法について、徐（1984）では圧尊法、また全（1995）では圧尊法・敬語抑制として言及されている。徐（1984）、全（1995）では、日韓の圧尊法・敬語抑制について比較しているなかで、圧尊法・敬語抑制が働くべき場面においては、韓国語では男性が、日本語では女性が従来の敬語用法に準じた用法を身につけているとしている。また、全（1995）では、韓国語における圧尊法は同質の集団における上下関係が矛盾した場合において強く見られるのに対し、日本語の敬語抑制は社会的上下関係および所属関係に関してであり、血縁関係については韓国語と違って現代語においては一般的にもともとその働きはないことが指摘されている。

しかし、以上の研究は、実態調査であっても、質問の選択肢は調査者の内省によるものであるため、調査者があげた選択肢以外の他称詞と述語の表現については言及されていない点で限界がある。また、このような聞き手に対する敬語や第三者への待遇の変化に関する日韓対照研究は、対象をかなり制限しての場面設定のなかで行われたものが多く、話し手の立場から聞き手と第三者の両方を十分配慮した研究とはいえないため、両言語の圧尊法・敬語抑制といった相対的使い分けを総合的・体系的に把握することには不十分な状況にある¹⁾。

さらに、韓国語における speech level を呼称・指称語と関連づけて言及している 兪（1996）

と¹⁾(2002)の研究では、韓国語の呼称・指称語は、場面や相手との関係によって、流動的であり各々述語の待遇と独立的に使用でき、規則的な用法からはずれ、ある程度戦略的にも使われているという指摘もみられる。しかし、²⁾(1996)は、ラジオ放送での「D-J Talk」の談話分析、³⁾(2002)は、軍隊でのことばの使用を中心に述べているなど、限られた場面でのことばの使用を扱っているため、これを一般化するには状況が異なる場面における実態調査からの検討が必要である。

ところで、韓国語におけるこのような指摘については日本語においても同じことが言えよう。つまり、日本語においてもインフォーマルかフォーマルかという場面の違いや親しい間柄かどうかといった相手との関係に応じて呼称を使い分けられることができる。しかし、このような社会言語学的観点からの日韓対照研究はほとんどなく、とりわけ第三者に対する言及称（以下、他称詞）の使用実態を知る上で直接役に立つデータのないのが現状である。

そのため、日本語と韓国語の第三者に対する待遇法をより明らかにするためには、まず、話し手の立場から聞き手と第三者の両方を配慮して発話する状況を把握し、その用法を総合的・体系的にとらえる必要がある。また、他称詞に関しても、できるだけ多彩なバリエーションの他称詞を収集して、その類型と使用実態を検討する必要がある。

そこで、本研究では、一般に両言語の待遇法の決定要因としてもっとも影響を及ぼすとされる「上下関係」と「親疎関係」に配慮し、第三者を「職場の上司」「両親」「友達」と設定した。そして、日本人と韓国人が第三者の「職場の上司」

「両親」「友達」のことを異なる社会的関係を有する二人の聞き手に対して、それぞれどのようにいうかをアンケート調査から収集し、その類型と使用実態を把握することとした。話し手からして「職場の上司」は「上・疎」の関係、「両親」は「上・親」の関係、「友達」は「同等・親」の関係にある。これによって、先行研究であげている日韓両言語の使い分けの特徴の基準を確認するとともに、もし、基準からうまく説明ができないケースがあるとすれば、それはどのような場面であるかについても実証的に検討することができると考える。

なお、「同等・疎」、「下・親」、「下・疎」の待遇法は、「同等・親」の場合からある程度推測ができると考えられるため、本調査では、これらの場面は除外することとした。また、今回アンケート調査を用いたのは、短時間に大量のデータを集めるために最も有効な調査方法であると考えたからである。

3. 調査方法

3.1 調査時期と被験者

調査は、2003年2月～3月の間、日本の広島と韓国のソウル在住の20代から50代までの有職者を対象にアンケート調査を行った。本稿の分析における被験者数は、日本人が167名で、韓国人が232名の合計399名である。年齢は、日本人の平均が38歳1ヶ月（標準偏差が11年4ヶ月）、韓国人の平均が30歳7ヶ月（標準偏差が6歳5ヶ月）であった。国別、性別、年齢層別の被験者数の詳細は表1に示したとおりである。

3.2 調査項目

表1 被験者の国別、性別および年齢層別の人数

国名	性	年齢層				合計
		20代	30代	40代	50代	
日本	女性	36	28	27	12	103
	男性	13	23	19	9	64
韓国	女性	77	51	19	6	153
	男性	38	28	12	1	79
合計		164	130	77	28	399

注: 数値の単位は人。

本調査では、日本語と韓国語の第三者待遇表現にはどんなものがあるかを明らかにするとともに、話し相手と第三者（話題者）の違いによっての待遇表現がどう変わって行くかを検討するために、質問紙では1人の第三者に対して異なる2人の聞き手が登場する6つの場面を想定した。

- (1) 場面1:【職場の上司は元気だ】を「親」にいう場面
- (2) 場面2:【職場の上司は元気だ】を「友達」にいう場面
- (3) 場面3:【親は元気だ】を「職場の上司」にいう場面
- (4) 場面4:【親は元気だ】を「友達」にいう場面
- (5) 場面5:【友達は元気だ】を「職場の上司」にいう場面
- (6) 場面6:【友達は元気だ】を「親」にいう場面

「職場の上司」「親」「友達」を指し示す他称詞に関する項目については、できるだけ多彩なバリエーションを収集するため自由記入式による複数回答を求めた。また「元気だ」に当たる述語の待遇については、聞き手に応じてどう変化するのかを把握するために、それぞれ待遇度が異なる4種類の表現を掲げて調査している。具体的にいうと、日本語は、「元気(だ、だよ、よ)」「元気です」、「お元気です」「お元気でいらっしゃいます」、韓国語は、「jal issseo」「jal issseumnida」「jal kyeseoyo」「jal kyesimnida」である。また、「その他」という自由記入の回答欄を設けて必要があれば記入するようにした。回答は複数回答を求めている。述語においてすべて自由記入式ではなく選択肢を与えたのは、分析の際、述語の待遇度の変化をある程度の基準を設けて検討する必要があったからである。本調査であげた述語にみられる待遇度の変化は両言語で同じ幅であるとはいいいがたいが、聞き手に対する敬意や第三者への待遇を検討するには差し支えないと考えられる。選択肢の「元気(だ、だよ、よ)/jal issseo」は、聞き手も第三者もあげない待遇表現、「元気です/jal issseumnida」は第三者はあげないが聞き手はあげる待遇表現、

「お元気です/jal kyeseoyo」は第三者をあげながら、聞き手に対してもある程度あげる待遇表現、「お元気でいらっしゃいます/jal kyesimnida」は聞き手も第三者もあげる待遇表現として考える。質問文の詳細は末尾に示す。なお、紙面の都合上日本語のみを示すことにする。

以下では、日本人と韓国人が第三者の「職場の上司」「両親」「友達」のことを異なる社会的関係を有する2人の聞き手に対して、それぞれどのようにいうかを他称詞と述語の待遇法に分けて、全体的に概観しつつ他称詞と待遇表現に関する日韓の違いを中心に結果を検討する。

4. 調査結果

4.1 他称詞

4.1.1 「職場の上司」に対する他称詞

日本人と韓国人の「職場の上司」に関する他称詞の使用実態は表2に示したとおりである。

両言語では「職場の上司」に言及する場合、聞き手に関係なく名前、地位・役職名が最も多く用いられており、この二つの使用率を合計すると全体の9割以上を占めている。しかし、それぞれの使用率を比較してみると日本では名前(54.6%)、地位・役職名(37.8%)の順、韓国ではその逆の地位・役職名(60.4%)、名前(35.8%)の順であり、これは聞き手が職場の上司から友達に変わっても変わらないようである。名前と地位・役職名の語形をそれぞれ使用頻度が高い順でみると、まず名前では日本語は「姓+さん」、韓国語は「姓名+ssi」が最も多く、地位・役職名では、日本語は「姓+地位・役職名」、韓国語は「地位・役職名+nim」「姓+地位・役職名+nim」が多かった。韓国語の「nim」は敬称で、韓国語の場合課長、部長といった地位・役職名は尊敬の意味が入っており、目上の人に対して敬意を表すためには敬称を付ける必要がある。そのため、日本語とは違って「地位・役職名」に「nim」を付けた語形が多く見られたと考えられる。

また、韓国語では地位・役職名の前に一人称複数形である「jeohui」(聞き手が親の場合においてだけ見られる)、「uri」(聞き手が親と友達の場合の両方において見られる)などと一人称複数形を

表2 第三者が職場の上司の場合における他称詞

日本人					韓国人									
語形		女性		男性		合計 %(数)	語形		女性		男性		合計 %	
		%	数	%	数				%	数	%	数		
聞き手が親の場合	名前	姓+さん	48.9	53	48.6	35	54.6 (101)	名前	姓名+ssi	38.0	60	25.6	21	35.8 (86)
		名+さん	2.7	3	6.9	5			姓名+nim	0.6	1	1.2	1	
		姓名+さん	0.9	1	0.0	0			名+ssi	0.6	1	1.2	1	
		私の職場の姓+さん	0.9	1	0.0	0			姓名	0.6	1	0.0	0	
		姓	0.0	0	2.8	2			地位・役職名	地位・役職名+nim	31.0	49	34.1	
	上司の姓	0.0	0	1.4	1	姓+地位・役職名+nim	13.9	22		22.0	18			
	地位・役職名	姓+地位・役職名	23.9	27	13.9	10	姓名+地位・役職名	4.4		7	0.0	0		
		地位・役職名	15.0	17	15.3	11	姓+地位・役職名	3.2		5	4.9	4		
		会社の姓+地位・役職名	0.9	1	0.0	0	姓名+地位・役職名+nim	1.3		2	2.4	2		
		うちの地位・役職名	0.9	1	0.0	0	地位・役職名	1.3	2	1.2	1			
地位・役職名+さん		0.0	0	1.4	1	uri+地位・役職名+nim	0.6	1	2.4	2				
地位・役職名+姓	0.0	0	1.4	1	名+地位・役職名	0.6	1	0.0	0					
会社の姓+地位・役職名さん	0.0	0	1.4	1	jeohui+地位・役職名+nim	0.0	0	1.2	1					
上司	上司	3.5	4	4.2	3	親族名称	名+eonni	1.3	2	0.0	0			
	うちの上司	0.9	1	0.0	0		名+oppa	0.6	1	0.0	0			
	会社の上司	0.9	1	0.0	0		名+hyeong	0.0	0	2.4	2			
	職場の上司	0.9	1	0.0	0		その他	geu salam	1.3	2	0.0	0		
その他	先輩	1.8	2	0.0	0	名+nom		0.6	1	0.0	0			
	あの人	0.0	0	2.8	2	名+seonbae		0.0	0	1.2	1			
合計		100.0	113	100.0	72	100.0(185)		合計		100.0	95	100.0	59	100.0(154)
聞き手が友達の場合	名前	姓+さん	45.5	55	48.1	37	53.0 (105)	名前	姓名+ssi	31.3	50	25.0	20	33.3 (80)
		名+さん	2.5	3	5.2	4			名	1.9	3	0.0	0	
		姓	0.8	1	3.9	3			名+ssi	1.3	2	1.3	1	
		上司の姓	0.0	0	1.3	1			姓名	0.6	1	2.5	2	
		私の職場の名+くん	0.8	1	0.0	0			姓名+nim	0.0	0	1.3	1	
	地位・役職名	姓+地位・役職名	23.1	28	10.4	8	36.4 (72)	地位・役職名	地位・役職名+nim	26.3	42	33.8	27	
		地位・役職名	14.9	18	14.3	11			姓+地位・役職名+nim	9.4	15	7.5	6	
		うちの地位・役職名	2.5	3	1.3	1			姓+地位・役職名	8.8	14	11.3	9	
		地位・役職名+さん	0.8	1	1.3	1			uri+地位・役職名+nim	2.5	4	1.3	1	
		姓名+地位・役職名	0.8	1	0.0	0			姓名+地位・役職名	2.5	4	1.3	1	
上司	上司	5.0	6	3.9	3	6.1 (12)	上司	地位・役職名	1.3	2	1.3	1		
	私の上司	1.7	2	0.0	0			姓名+地位・役職名+nim	1.3	2	1.3	1		
	会社の上司	0.0	0	1.3	1			uri+姓+地位・役職名+nim	0.6	1	1.3	1		
その他	その他	彼	0.8	1	3.9	3	4.5 (9)	親族名称	sangsa	0.6	1	1.3	1	
		職場の人	0.8	1	0.0	0			sangsa+nim	0.6	1	0.0	0	
		あの人	0.0	0	3.9	3			名+eonni	5.0	8	2.5	2	
		うちの親分	0.0	0	1.3	1			姓名+eonni	1.3	2	0.0	0	
									名+oppa	0.6	1	0.0	0	
合計		100.0	121	100.0	77	100.0(198)	合計		100.0	104	100.0	58	100.0(240)	

注: 複数回答あり

付けて呼ぶ形式も見られた。この場合の「jeohui」, 「uri」は所属グループ(この場合は会社)を表すものであると考えられるが、一人称複数形の「uri」は、話し手と聞き手との距離をより縮めようとする意図で用いることもあるという指摘(鄭, 2002)もあるのでこれについては更なる検討が必要であろう。一方日本語では、所属グループを表すことばとして「うち」が用いられているが、

韓国語のような複数形の使用は見られなかった。本調査における日本語の「うち」と韓国語の「jeohui」「uri」は所属グループを表している点では共通しているものの、はたして「うち」と「jeohui」「uri」が同じ機能をもつものであるかどうかについてはまだ疑問も残っており、これについては今後検討が必要であると考えられる。その他、両言語では自分と話題の人の地位関係をその

まま表すような「上司/sangsa」といった語形がみられた。親族名称の使用は韓国語だけに見られ、使用率は低いものの上司に対しても親族名称が用いられる。

ところで韓国語では、上司や親族名称、そして先輩などに「nim」という敬称を付ける語形、つまり「sangsanim」「hyeongnim」「seonbaenim」といったものは聞き手が友達の場合においてだけ見られており、親が聞き手の場合においては見られない。これについては圧尊法が働いていると考えられ、韓国人は職場の上司よりも親により高い待

遇を示していることが推測される。

4.1.2 「親」に対する他称詞

日本人と韓国人の「親」に関する他称詞の使用実態は表3に示したとおりである。

自分の親に言及する場合、両言語とも親族名称を用いるのが一般的である点では共通している。しかし、両言語では話し手と聞き手との親疎関係に応じて用いられる語形に違いが見られた。まず、心理的に少し距離があると考えられる上司の場合、日本語では、「父・母」(女性の66.7%, 男性

表3 第三者が親の場合における他称詞

		日本人				韓国人					
聞き手が上司の場合	親族名称	語形		女性	男性	語形		女性	男性	合計	
		%	数	%	数	%	数	%	数	% (数)	
聞き手が上司の場合	親族名称	父/母	66.7	90	65.3	47	abeoji/eomeoni	55.0	88	45.1	37
		両親	22.2	30	12.5	9	bumonim	15.0	24	31.7	26
		父さん/お母さん	3.7	5	2.8	2	abeonim/eomeonim	6.9	11	8.5	7
		うちの両親	1.5	2	4.2	3	appa/eomma	6.9	11	3.7	3
		私の父/母	1.5	2	0.0	0	jeohui bumonim	6.3	10	3.7	3
		父親/母親	1.5	2	0.0	0	abeoji/eomma	5.6	9	4.9	4
		お父さん/お母さん	0.7	1	2.8	2	uri bumonim	1.3	2	1.2	1
		親	0.7	1	1.4	1	jeohui abeoji/eomeoni	1.3	2	0.0	0
		うちの父/母	0.7	1	0.0	0	uri appa/eomma	0.6	1	0.0	0
		うちの親	0.7	1	0.0	0	jeohui eomma/appa	0.6	1	0.0	0
		おやじ/おふくろ	0.0	0	8.3	6	jeohui abeoji/eomma	0.6	1	0.0	0
		父さん/母さん	0.0	0	1.4	1	abeonim/eomeoni	0.0	0	1.2	1
その他	じいさん/ばあさん	0.0	0	1.4	1						
合計		100.0	135	100.0	72	100.0	160	100.0	82	100.0(206)	
聞き手が友達の場合	親族名称	父/母	34.0	48	26.4	19	appa/eomma	34.6	54	21.3	17
		お父さん/お母さん	25.5	36	6.9	5	abeoji/eomeoni	21.2	33	33.8	27
		両親	13.5	19	8.3	6	abeoji/eomma	21.2	33	12.5	10
		おやじ/おふくろ	5.7	8	29.2	21	bumonim	10.9	17	16.3	13
		うちの親	3.5	5	4.2	3	uri bumonim	7.1	11	7.5	6
		親	2.8	4	2.8	2	uri appa/eomma	3.8	6	2.5	2
		父親/母親	2.1	3	0.0	0	uri abeoji/eomeoni	0.6	1	2.5	2
		うちの両親	1.4	2	1.4	1	uri abeoji/eomma	0.6	1	1.3	1
		うちの父/母	1.4	2	0.0	0	abeonim/eomeonim	0.0	0	2.5	2
		パパ/ママ	1.4	2	0.0	0					
		うちの父親/母親	1.4	2	0.0	0					
		私の父/母	1.4	2	0.0	0					
		父さん/母さん	0.7	1	4.2	3					
		私のお父さん/お母さん	0.7	1	0.0	0					
		お父ちゃん/お母ちゃん	0.7	1	0.0	0					
		私の両親	0.7	1	0.0	0					
		父ちゃん/母ちゃん	0.7	1	0.0	0					
		おとん/おかん	0.0	0	2.8	2					
		おとー/おかー	0.0	0	2.8	2					
	父やん/母やん	0.0	0	1.4	1						
おやじ/おかん	0.0	0	1.4	1							
おやじ/おかあ	0.0	0	1.4	1							
おやじ/母さん	0.0	0	1.4	1							
うちのおやじ/おふくろ	0.0	0	1.4	1							
その他	あの人達	0.7	1	1.4	1						
	彼ら	0.7	1	0.0	0						
	うち(家)の人	0.7	1	0.0	0						
	じいさん/ばあさん	0.0	0	1.4	1						
	あだな	0.0	0	1.4	1						
合計		100.0	141	100.0	72	100.0	156	100.0	80	100.0(213)	

注: 複数回答あり

の65.3%)を用いることが最も多いのに対し、韓国語では「abeoji, eomeoni」(女性の55.0%,男性の45.1%)が最も多く出現している。一方上司よりは心理的に近い間柄である友達に対しては、日

本語では上司に対する場合と同様、「父・母」(女性の34.0%,男性の26.4%)が最も多く用いられている。しかし、上司に対する場合に比べると「お父さん・お母さん」の出現頻度もかなり高く、と

表4 第三者が友達の場合における他称詞

日本人					韓国人													
語形	女性		男性		合計	語形	女性		男性		合計							
	%	数	%	数	%(数)		%	数	%	数	%(数)							
聞き手が上司の場合	名前	姓+さん	48.8	59	11.7	9	名前	名	47.4	81	54.5	48						
		姓	9.9	12	33.8	26		名+ssi	25.1	43	10.2	9						
		名	5.0	6	2.6	2		姓名	8.8	15	8.0	7						
		姓+くん	2.5	3	22.1	17		姓名+ssi	2.9	5	5.7	5						
		名+さん	2.5	3	3.9	3		chinku+名	1.2	2	1.1	1						
		姓名+さん	4.2	5	1.3	1		je chinku+名	0.6	1	1.1	1						
		友達の姓	0.8	1	1.3	1		chinku+名前+ssi	0.6	1	0.0	0						
		名+ちゃん	0.8	1	0.0	0		je chinku+姓名	0.0	0	1.1	1						
		ニックネーム+ちゃん	0.8	1	0.0	0		聞き手が上司の場合	友達	je chinku	3.5	6	5.7	5				
		名+くん	0.0	0	2.6	2				geu chinku	2.3	4	4.5	4				
姓+ちゃん	0.0	0	1.3	1	chinku	2.3	4			3.4	3							
友人	7.4	9	6.5	5	名前+chinku	2.3	4			1.1	1							
友達	5.0	6	2.6	2	nae chinku	1.2	2			1.1	1							
私の友達	1.7	2	0.0	0	聞き手が親の場合	名前	geu ae			1.2	2	0.0	0					
親友	0.8	1	0.0	0			子供名+eomma			0.6	1	0.0	0					
私の友	0.8	1	0.0	0			名+nyeoseok			0.0	0	1.1	1					
私の友人	0.8	1	0.0	0			姓+職業名			0.0	0	1.1	1					
お親友	0.0	0	1.3	1			聞き手が親の場合			友達	chinku	1.3	2	2.4	2			
その他	彼・彼女	3.3	4	3.9				3	je chinku		0.6	1	1.2	1				
	あの人	0.8	1	1.3				1	geu chinku		0.8	1	0.0	0				
	その人	0.8	1	0.0				0	聞き手が親の場合		その他	子供の名+eomma	3.1	5	0.0	0		
	あの子	0.8	1	0.0				0				名+nyeoseok・imma	0.6	1	3.6	3		
	あいつ	0.8	1	0.0				0				geu ai	1.9	3	0.0	0		
	そいつ	0.8	1	0.0	0	kyae		1.3				2	0.0	0				
	あいつら	0.8	1	0.0	0	名+nom		0.0				0	2.4	2				
知り合いの人	0.0	0	1.3	1	姓+職業名	0.0		0				1.2	1					
知人	0.0	0	1.3	1	合計	100.0		171				100.0	88	100.0(259)				
あだ名	0.0	0	1.3	1	聞き手が親の場合	名前	名	89.3		142		86.7	72					
合計	100.0	121	100.0	77			100.0(198)	名+ssi		0.6		1	0.0	0				
聞き手が親の場合	名前	姓+さん	34.8	46			13.6	11		chinku+名		0.6	1	2.4	2			
		名+ちゃん	15.9	21			2.5	2	聞き手が親の場合	友達	chinku	1.3	2	2.4	2			
		姓+くん	9.1	12			25.9	21			je chinku	0.6	1	1.2	1			
		名	8.3	11			7.4	6			geu chinku	0.8	1	0.0	0			
		ニックネーム+ちゃん	7.6	10			1.2	1			聞き手が親の場合	その他	子供の名+eomma	3.1	5	0.0	0	
		姓	4.5	6			33.3	27					名+nyeoseok・imma	0.6	1	3.6	3	
		姓+ちゃん	4.5	6			0.0	0					geu ai	1.9	3	0.0	0	
		名+さん	3.0	4			3.7	3					kyae	1.3	2	0.0	0	
		姓名+ちゃん	1.5	2	0.0	0	名+nom	0.0					0	2.4	2			
		名+くん	0.8	1	3.7	3	姓+職業名	0.0					0	1.2	1			
友達の姓	0.8	1	0.0	0	合計	100.0	159	100.0					83	100.0(242)				
姓名+さん	0.8	1	0.0	0	聞き手が親の場合	その他	あだな	2.3	3	2.5			2					
友達	3.0	4	0.0	0			うちの友達	0.8	1	3.7			3					
うちの友達	0.8	1	0.0	0			(地名)の友達	0.8	1	0.0			0					
(地名)の友達	0.8	1	0.0	0			合計	100.0	132	100.0	81	100.0(213)						
その他	あだ名	2.3	3	2.5			2	聞き手が親の場合	その他	あいつ	0.0	0	2.5	2				
	彼・彼女(ら)	0.8	1	3.7			3			聞き手が親の場合	その他	あいつ	0.0	0	2.5	2		
	その人達	0.8	1	0.0			0					聞き手が親の場合	その他	あいつ	0.0	0	2.5	2
	あいつ	0.0	0	2.5			2											

注. 複数回答あり

りわけ女性の使用(25.5%)が顕著である。男性の場合は「お父さん・お母さん」(6.9%)よりは「おやじ・おふくろ」(29.2%)の使用が高いようである。韓国語では、友達に対しては全体的に「appa/eomma」という子供語が「abeoji/eomeoni」よりも若干多用されているようである。とりわけ、「appa/eomma」は女性(34.6%)が男性(21.3%)に比べてより多用している。

また、親に対する他称詞として「両親」「bumonim」といった語形が見られる点は注目できる。「両親」も「bumo」も父と母という両方の親を表しているものではあるが、韓国語では聞き手にかかわらず「nim」という敬称を付けて用いており、これからも絶対的使い分けの一面をみてとることができよう。

ところで、本調査では親に関する他称詞の語形に、出現頻度は低いものの、「父さん/お母さん」「abeoji/eomma」などとどちらか一方は上げながら他の一方は下げている形式がみられており、大変興味深い。このように父親と母親とで待遇を変えることについては、話し手と父親、話し手と母親の心理的距離が異なることが反映していると推測されるが、これについては更なる検討が必要であると思われる。

4.1.3 「友達」に対する他称詞

日本人と韓国人の「友達」に関する他称詞の使用実態は表4に示したとおりである。

友達のことを職場の上司や親に言う場合は、両言語とも「名前」が最も多く用いられており、最も一般的呼称であることが分かる。とりわけ、親に友達のことを言う場合では、日本語も韓国語も「名前」の使用が9割以上を占めている。日韓両言語で用いられる名前の語形を具体的にみると、日本語では全体的に「姓」を用いる語形が多く、そのなかでも女性は「姓+さん」(聞き手が上司の場合が48.8%、親が34.8%)、男性は「姓の呼び捨て」(聞き手が上司の場合が33.8%、親の場合が33.3%)が最も多用されている。これに対し韓国語では、友達の「名」を用いる語形が最も多く、男女ともに「名の呼び捨て」(聞き手が上司の場合、女性の47.4%、男性の54.5%・聞き手が親の場合、女性の89.3%、男性の86.7%)が最も多用されている。

また、両言語では「友達」「chinku」といった友達を意味する語彙をそのまま用いる語形が用いられているが、名前に比べるとその出現頻度は低いといえよう。ところで、第三者が上司や親の場合に見られた韓国語における所属グループを表す

表5 聞き手が職場の上司の場合における述語待遇
日本人 韓国人

語形		女性		男性		合計
		%	数	%	数	%(数)
第三者 が 親の 場合	選択肢	93.5	100	85.1	57	90.2(157)
	元気です	0.9	1	4.5	3	2.3(4)
	お元気です	0.0	0	4.5	3	1.7(3)
	元気(だ、だよ、よ)	0.0	0	3.0	2	1.2(2)
	お元気でいらっしゃいます	0.9	1	1.5	1	
その他	元気しています	0.9	1	1.5	1	
	元気にしてあります	0.9	1	0.0	0	4.6
	元気でおります	1.9	2	0.0	0	(8)
	元気になっています	0.9	1	0.0	0	
	元気でおります	0.9	1	0.0	0	
合計		100.0	107	100.0	67	100.0(174)
第三者 が 友達の 場合	選択肢	87.3	96	91.0	61	88.7(157)
	元気です	7.3	8	6.0	4	6.8(12)
	お元気です	0.0	0	1.5	1	0.6(1)
	元気(だ、だよ、よ)	0.0	0	0.0	0	
	お元気でいらっしゃいます	0.9	1	1.5	1	
その他	元気しています	0.9	1	0.0	0	
	元気みたいです	0.9	1	0.0	0	3.9
	元気にしてあります	0.9	1	0.0	0	(7)
	元気になっています	0.9	1	0.0	0	
	元気なようです	0.9	1	0.0	0	
元気でいらっしゃいます	0.9	1	0.0	0		
合計		100.0	110	100.0	67	100.0(177)

語形		女性		男性		合計
		%	数	%	数	%(数)
第三者 が 親の 場合	選択肢	51.3	98	53.7	51	52.1(149)
	jal kyeseoyo	47.6	91	44.2	42	46.5(133)
	jal kyesimnida	1.0	2	0.0	0	1.7(2)
	jal isseumnida	0.0	0	0.0	0	
	jal isseoyo	0.0	0	2.1	2	
その他	合計					0.7
						(2)
合計		100.0	191	100.0	95	100.0(286)
第三者 が 友達の 場合	選択肢	84.8	139	92.6	75	87.3(214)
	jal isseumnida	2.4	4	2.5	2	2.5(6)
	jal isseoyo	1.8	3	0.0	0	1.2(3)
	jal kyeseoyo	0.0	0	0.0	0	
	jal kyesimnida	9.1	15	4.9	4	
その他	合計	1.8	3	0.0	0	9.0(22)
合計		100.0	164	100.0	81	100.0(245)

注1. 複数回答あり

注2. その他は自由記入式による回答

「jeohui」「uri」といった一人称複数形(4.1.1 参照)は、友達に対して言及する場合は見られなかった。一方日本語では、「うち」が見られているが、女性だけが用いており、ここでの「うち」は所属グループを表しているというよりも「わたし」の意味として用いていると考えられる。

4.2 述語の待遇法

4.2.1 聞き手が職場の「上司」の場合

職場の上司に対して「親」と「友達」のことを言う場合の述語の待遇度は表5に示したとおりである。また、選択肢で提示した4つの表現の出現頻度だけをグラフ化して示したのが図1である。なお、本稿では、4つの表現の出現頻度に関する日韓差の統計的有意性をみるため、カイ二乗検定を行った(以下同様)。

職場の上司に対して自分の親のことを言う場合、日本語は「元気です」という聞き手に対してのみ丁寧語を用いる語形、韓国語は「jal kyeseoyo」「jal kyessimnida」という第三者と聞き手を同時に上げる語形が多用されている。両言語間の差は明確であり、この結果は、カイ二乗検定により0.1%水準で有意差が認められた($\chi^2_{(3)} = 416.32, p < .001$)。これは、身内に対しては敬語を用いないのを原則とする日本語の相対的使い分けと身内であっても目上の人に対しては敬語を用いるのを原則とする韓国語の絶対的使い分けという先行研究の結果を裏付けているといえる。一方、自分と

同等関係の友達のことを言う場合、カイ二乗検定の結果($\chi^2_{(2)} = 10.78, p < .01$)、日韓両言語間で違いは認められたものの、日本語では「元気です」、韓国語では「jal issseumnida」と聞き手だけに丁寧語を用いる述語の形式が最も多用されている点では同じ傾向が見られた。両言語とも第三者が自分と同等関係の友達のことを目上の上司に対して言う場合は待遇度が高い述語は用いないのが一般的であるといえる。

4.2.2 聞き手が「親」の場合

親に対して「職場の上司」と「友達」のことを言う場合の述語の待遇度は表6に示したとおりである。また、選択肢で提示した出現頻度だけをグラフ化して示したのが図2である。

親に職場の上司のことを言う場合、日本語は「元気(だ、だよ、よ)」、韓国語は「jal issseumnida」が最頻値である。つまり、日本語は聞き手も第三者も上げない述語の語形が、韓国語は親である聞き手に対しては丁寧語を用いながら、第三者である職場の上司に対しては敬語を用いない語形が最も多く用いられているようである。この結果は、カイ二乗検定により0.1%水準で有意差が認められた($\chi^2_{(3)} = 131.12, p < .001$)。一方、親に友達のことを言う場合は、日本語では「元気(だ、だよ、よ)」、韓国語では「jal issseumnida」の語形が最も多用されている。この結果は、カイ二乗検定により0.1%水準で有意差が認められた($\chi^2_{(2)} = 10.78, p < .01$)。

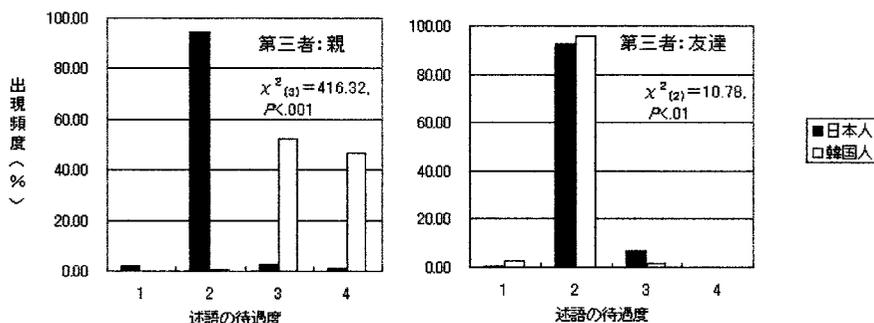


図1. 聞き手が職場の上司の場合における述語の待遇度

注1. 述語の待遇度1. 「元気だ、だよ、よ」/jal issseo, 2. 「元気です/jal issseumnida, 3. 「お元気です/jal kyeseoyo, 4. 「お元気でいらっしゃいます/jal kyessimnida」

表6 聞き手が親の場合における述語待遇

日本人						韓国人						
語形	女性		男性		合計 %(数)	語形	女性		男性		合計 %(数)	
	%	数	%	数			%	数	%	数		
選択肢	元気(だ、だよ、よ)	40.3	48	50.7	37	44.3(85)	jal isseumnida	59.2	103	55.6	45	58.0(148)
	お元気です	26.9	32	17.8	13	23.4(45)	jal kyeseyo	17.8	31	28.4	23	21.2(54)
	元気で	14.3	17	24.7	18	18.2(35)	jal kyesimnida	11.5	20	12.3	10	11.8(30)
	お元気でいらっしゃいます	5.9	7	2.7	2	4.7(9)	jal isseo	4.6	8	3.7	3	4.3(11)
第三者 が上司 の場合 その他	お元気よ	5.0	6	0.0	0	9.4 (18)	jal isseoyo	5.2	9	0.0	0	4.7 (12)
	お元気にされてるよ	0.8	1	1.4	1		jal kyeseyo	0.6	1	0.0	0	
	お元気そうですよ	0.8	1	0.0	0		jal issdeyo	0.6	1	0.0	0	
	お元気だよ	0.8	1	0.0	0		jal jinaeyo	0.6	1	0.0	0	
	元気でいらっしゃいます	0.8	1	0.0	0							
	元気でいらっしゃる	0.8	1	0.0	0							
	元気で	0.8	1	0.0	0							
	元気にされています	0.8	1	0.0	0							
	元気にされているよ	0.8	1	0.0	0							
	元気よ	0.8	1	0.0	0							
	元気で	0.0	0	1.4	1							
元気っぽい	0.0	0	1.4	1								
合計	100.0	119	100.0	73	100.0(192)	合計	100.0	174	100.0	81	100.0(255)	
選択肢	元気(だ、だよ、よ)	82.1	92	69.3	52	77.0(144)	jal isseumnida	49.3	101	59.3	51	52.2(152)
	元気で	13.4	15	22.7	17	17.1(32)	jal isseo	38.0	78	37.2	32	37.8(110)
	お元気です	1.8	2	1.3	1	1.6(3)	jal kyeseyo	0.0	0	0.0	0	
	お元気でいらっしゃいます	0.0	0	0.0	0		jal kyesimnida	0.0	0	0.0	0	
第三者 が友達 の場合 その他	元気みただよ	0.9	1	0.0	0	4.3 (8)	jal isseoyo	7.8	16	3.5	3	10.0 (29)
	元気よ	0.9	1	0.0	0		jal jinaeyo	2.4	5	0.0	0	
	元気そうだよ	0.9	1	0.0	0		jal jinaendeyo	1.5	3	0.0	0	
	元気で	0.0	0	1.3	1		jal issdeyo	1.0	2	0.0	0	
	元気しとる	0.0	0	1.3	1		jal isseo	0.5	1	0.0	0	
	元気なんちゃうんけー	0.0	0	1.3	1							
	元気だよ	0.0	0	1.3	1							
元気ーや	0.0	0	1.3	1								
合計	100.0	112	100.0	75	100.0(187)	合計	100.0	205	100.0	86	100.0(291)	

注1. 複数回答あり

注2. その他は自由記入式による回答

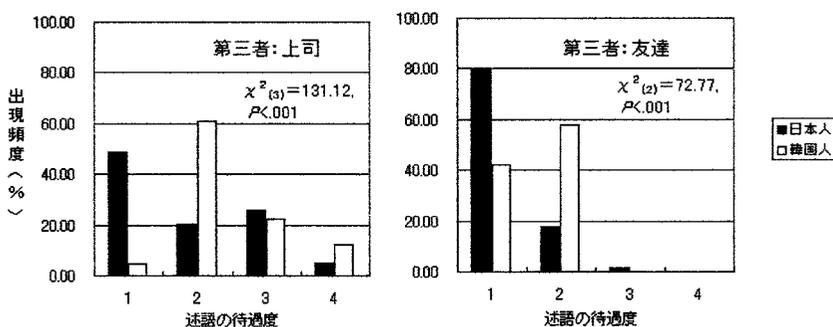


図2 聞き手が親の場合における述語の待遇度

注1. 述語の待遇度 1. 「元気だ、だよ、よ) / jal isseo」、2. 「元気で / jal isseumnida」、3. 「お元気で / jal kyeseyo」、4. 「お元気でいらっしゃいます / jal kyesimnida」

(2) = 72.77, $p < .001$). つまり、日本語では聞き手も第三者も上げない語形が、韓国語は聞き手だけ

に丁寧語を用いる語形が好まれるといえよう。しかし、本調査では、韓国語の場合「jal isseo」と

いう聞き手と第三者の両方とも上げない語形の出現頻度も比較的に高いことが明らかになった。これは、身内であっても目上の人に対しては待遇が高い述語を用いるのを原則とする韓国語の絶対的使い分けの概念からは説明ができないものであるといえよう。

なお、「お元気でいらっしゃいます」「jal kyeseyo」「jal kyesimnida」という自分と同等な関係の友達を上げる述語の使用は両言語とも見られなかった。

4.2.3 聞き手が「友達」の場合

友達に対して「職場の上司」と「親」のことを言う場合の述語の待遇度は表7に示したとおりである。また、選択肢の出現頻度だけをグラフ化して示したのが図3である。

自分と対等な関係の友達に対して、目上である職場の上司のことを言う場合、日本語は「元気(だ、だよ、よ)」、韓国語は「jal isseo」が最頻値である。カイ二乗検定の結果 ($\chi^2_{(3)} = 9.66, p < .05$)、日韓両言語間に有意差が認められたものの、両言語とも友達も職場の上司もあげない語形が最も多用されている点では同じ傾向がみられた。本調査で明らかになった韓国語の職場の上司を上げない述語の使用は、目上の人には待遇が高い述語を用いるという韓国語の絶対的使い分けに関する基準からはみ出たものであるといえよう。一方、親のことを言う場合、日本語は、職場の上司のことを言う場合同様、「元気(だ、だよ、よ)」が最も多用されており、両者に対して用いられる述語の待遇度は同じであった。これに対し韓国語は、親については「jal kyeseyo」が選択肢

表7 聞き手が友達の場合における述語待遇 日本人 韓国人

日本人						韓国人								
語形		女性		男性		合計 %(数)	語形		女性		男性		合計 %(数)	
		%	数	%	数				%	数	%	数		
第三者 が上司 の場合	選択肢	元気(だ、だよ、よ)	52.5	63	60.3	44	55.4(107)	選択肢	jal isseo	50.6	88	68.5	50	55.9(138)
		元気です	17.5	21	26.0	19	20.7(40)		jal kyeseyo	8.0	14	16.4	12	10.5(26)
		お元気です	17.5	21	5.5	4	13.0(25)		jal isseumnida	9.8	17	5.5	4	8.5(21)
		お元気でいらっしゃいます	0.8	1	4.1	3	2.1(4)		jal kyesimnida	2.3	4	2.7	2	2.4(6)
	その他	お元気そうですよ	5.0	6	0.0	0		jal kyeseyo	25.3	44	4.1	3		
		お元気だよ	0.8	1	1.4	1		jal jinaegoisseo	0.6	1	1.4	1		
		お元気でいらっしゃるよ	0.8	1	0.0	0		annyeonghasyeyo	0.6	1	0.0	0		
		お元気ですよ	0.8	1	0.0	0		jal kyesiji	0.6	1	0.0	0		
		お元気にされてるよ	0.8	1	0.0	0		jal issde	0.6	1	0.0	0		
		お元気よ	0.8	1	0.0	0	8.8 (17)	jal isseoyo	0.6	1	0.0	0	22.7 (56)	
		元気、元気	0.8	1	0.0	0		jal issji	0.6	1	0.0	0		
		元気にされているよ	0.8	1	0.0	0		jal jinae	0.6	1	0.0	0		
		元気にしよってよ	0.8	1	0.0	0		jal kyesinda	0.0	0	1.4	1		
		元気で	0.0	0	1.4	1								
		元気でよ	0.0	0	1.4	1								
		合計	100.0	120	100.0	73	100.0(193)	合計	100.0	174	100.0	73	100.0(247)	
第三者 が親 の場合	選択肢	元気(だ、だよ、よ)	78.2	86	73.5	50	75.7(136)	選択肢	jal kyeseyo	14.9	26	36.5	19	19.9(45)
		元気です	21.8	24	26.5	18	22.3(42)		jal kyesimnida	7.5	13	3.8	2	6.6(15)
		お元気です	0.0	0	0.0	0			jal isseo	5.8	10	9.6	5	6.6(15)
		お元気でいらっしゃいます	0.0	0	0.0	0			jal isseumnida	1.7	3	1.9	1	1.9(4)
	その他							その他	jal kyeseyo	54.6	95	34.6	18	
									jal jinaesyeyo	8.6	15	3.8	2	
									geonkanghasyeyo	2.3	4	0.0	0	
									jal jinaegokyesyeyo	1.1	2	3.8	2	
									jal kyesiji	1.1	2	0.0	0	
									jal isseusyeyo	1.1	2	0.0	0	
									gwaenchaneusyeyo	0.6	1	0.0	0	65.0 (147)
									jal kyesinde	0.6	1	0.0	0	
									jal kyesida	0.0	0	3.8	2	
									jal kyesindane	0.0	0	1.9	1	
		合計	100.0	110	100.0	68	100.0(180)		合計	100.0	174	100.0	52	100.0(226)

注1. 複数回答あり

注2. その他は自由記入式による回答

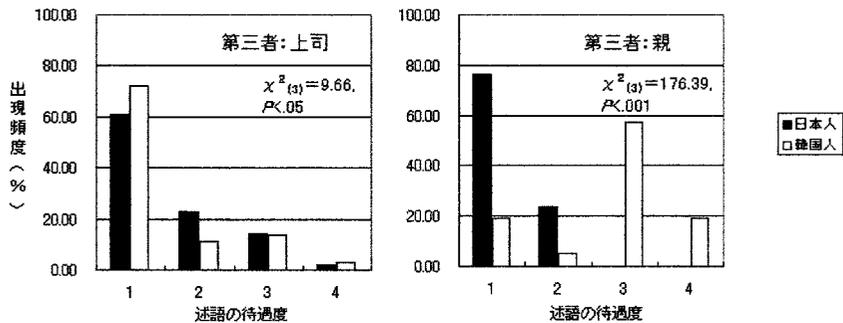


図3．聞き手が友達の場合における述語の待遇度

注1．述語の待遇度1．「元気だ、だよ、よ」/jal issseo, 2．「元気です / jal issseumnida, 3．「お元気です / jal kyeseyo, 4．「お元気でいらっしゃいます / jal kyesimnida」

の中では最も多用されており、職場の上司を言う場合よりも待遇度が高い述語を用いていることが分かる。この結果は、カイ二乗検定により0.1%水準で有意差が認められた ($\chi^2_{(3)} = 176.39, p < .001$)。ただし、その他の自由記入式を含めると最も出現頻度が高かったのは第三者である上司はあげながら、聞き手である友達はあげない語形「jal kyeseyo」であり、50.0%を示している。

本調査の結果から分かるのは、自分と同等な関係の友達と話をする場面では、日本語は第三者が目上であっても普段あまり敬語を用いないのが多いのに対し、韓国語は第三者が目上である場合、とりわけ親のことを言う場合は敬語を用いているということである。

5．考察

以上の分析結果から興味深い点をまとめると以下のことが言える。

(1) 他称詞の使用をみると、相対的使い分けをする日本語では、外の人間である聞き手に対して自分の身内である親のことを「父/母」と呼ぶのが従来の基準に添った待遇法である。しかし本調査では、日本語の場合、「お父さん/お母さん」も用いられており、とりわけ聞き手が友達の場合は出現頻度が19.3%に上る。一方韓国語においても聞き手が友達の場合には、本来子供語である「appa/eomma」(30.1%)が「abeoji/eomeoni」

(25.4%)よりも多用されていることが分かった。このように、従来の使い分けの基準からはみだした語形が、とりわけ上司よりも友達に対してより多く用いられることについては、職場の上司と友達という聞き手との心理的な親疎関係が影響していると考えられる。つまり両言語とも、ある程度心理的距離がある職場の上司に対してよりは自分と対等で近い存在である友達に対して、比較的待遇法の基準からはみだした語形が取られやすくなるといえよう。

(2) 両言語の親に対する他称詞の語形を観察すると、「父さん/お母さん」「abeoji/eomma」などとどちらか一方は上げながら他の一方は下げている形式がみられており、大変興味深い。父親と母親とで待遇を変えることについては、上下関係よりも心理的親疎関係がより影響していると推測されるが、これについては更なる検討が必要であろう。

(3) 述語にみられる待遇の変化について聞き手を中心に観察すると、両言語とも、職場の上司に対しては丁寧語が用いられ、友達に対しては丁寧語が省略された形式が多く用いられている点では同じ傾向が見られるものの、聞き手が身内である親に対してはかなりの相違がみられる。既存の実態調査や先行研究からすると、日本語は身内である親に対しては丁寧語を用いていないのに対し、韓国語では親に対しても丁寧語を用いるのが従来の待遇用法に準じた使い方であるといえる。

しかし、本調査においては韓国語でも親に対して「jal issseo」といった形式が用いられており、とりわけ第三者が友達の場合はその出現頻度(37.8%)もかなり高いことが明らかになった。これは、日本語は相対的使い分け、韓国語は絶対的使い分けであるという基準からは説明できないものであるといえよう。

(4)話し手にとって聞き手と第三者がともに目上の場合、日本人と韓国人の述語の待遇度には違いがみられた。つまり、聞き手が上司で第三者が親の場合、日本人は「元気です」(90.2%)といった第三者は上げずに聞き手だけを上げる待遇表現を多用しているのに対し、韓国人は「jal kye-seyo (52.1%)」といった第三者である親を上げながら、聞き手である職場の上司もある程度持ち上げる待遇表現を多用している。また、聞き手が親で第三者が上司の場合、日本人は「元気(だ、だよ、よ)」(44.3%)と聞き手と第三者両方とも上げない待遇表現が最も多く用いている。これに対し、韓国人は「jal issseumnida」(58.0%)と聞き手は持ち上げて、第三者は持ち上げない待遇表現を最も多く用いている。つまりこれは、日本人は親よりも職場の上司に、韓国人は職場の上司よりは親に対してより高い待遇をしていることを意味しているといえよう。

同様のことが、友達に対して職場の上司と親のことをいう2つの場面の比較からも分かる。日本人は両者に対して「元気(だ、だよ、よ)」(第三者が上司の場合が55.4%、親の場合が75.7%)といった聞き手と第三者も上げない待遇表現を用いているのに対し、韓国人は第三者が職場の上司の場合は「jal issseo」(55.9%)を、親の場合は「jal kyesyeo」(50.0%)を多用している。

ところで、従来身内に対する敬語に関する日本語と韓国語の違いについては、相対敬語と絶対敬語という概念を用いて説明することが一般的であった。しかし、荻野他(1991)は、「父」に対して敬語を使うかどうかに関する日韓の差は、韓国側を「絶対敬語」というなら、「父」に対していつも低い(敬語を使わない)日本側を「絶対非敬語」というべきであり、単に父親を高く待遇するか低く待遇するかというのは文化の違いに過ぎないと、この問題を絶対敬語 - 相対敬語の問題の一

部として扱うのは筋違いであるとしている。荻野他(1991)は大学生を対象にした研究であったが、社会人を対象にした本研究においても、日本人は身内である親のことを言及する場合は、聞き手に関係なく低く待遇するのが最も多かったことを考えると荻野他(1991)の指摘は注目に値するものであるといえよう。

6. 終わりに

本研究では、両言語の他称詞と述語待遇の用法の使用実態を調査し、その結果から従来指摘されてきた両言語における待遇表現の使い分けの基準、つまり相対的使い分け(日本語)と絶対的使い分け(韓国語)に焦点を当てて考察を行った。

その結果、本研究では日本語は相対的使い分け、韓国語は絶対的使い分けの傾向が強いものの、今まで言われた基準ではうまく説明ができないケースをも見出すことができた。本調査で見出すことができた相対的使い分け、絶対的使い分けに関する基準からはみ出た現象が、両言語とも特に聞き手が近い間柄で起こりやすいという点は、日韓両言語では比較的に近い間柄では規範意識が消極的に働いているとも、あるいはこれらの間柄では何か特別な心理的効果を狙う話者の戦略が働いているとも解釈できるが、これについては今後の課題としたい。あわせて、他称詞と第三者に対する述語が同じように待遇されているかどうか、他称詞の待遇度と述語にみられる待遇度が同じかどうか、もしそうでなければ、それはどのような場合に起きるのかについても実証的研究を続けていきたいと考えている。

注

- (1)日本語と韓国語の聞き手に対する敬語や場面による話題の人物の待遇変化についての調査には荻野他(1991)などもある。しかし、荻野他の論文では学生を対象に調査し、話題の人物と話し手の関係とともに、話題の人物が「いる・いない」の場面相違として日記に書く場合を設定している。しかし、全(1995)も指摘しているように、日記という設定は聞き手が存在せず、また文章表現であ

ることから，圧尊法や敬語抑制といった性質が表れる場面ではないという点で限界性があるといえる。

参考文献

- 梅田博（1979）「朝鮮語の敬語」『言語』18（6）58-61.
- 荻野網男（1989）「対照社会言語学と日本語教育 - 日韓の敬語用法の対照研究を例にして - 」『日本語教育』69, 47-63.
- 荻野網男他（1990）「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」『朝鮮学報』136, 1-51.
- 荻野網男他（1991）「日本語と韓国語の第三者に対する敬語用法の比較対照」『朝鮮学報』141, 1-42.
- 全淑美（1995）「韓・日敬語用法の対照研究 - 話題の人物の待遇を中心に - 」『日本語教育』85, 66-79.
- 鄭惠先（2002）「日本語と韓国語における人称詞の使用実態 - アンケート調査の分析結果から見る頻度差と用法の相違 - 」『計量国語学』23（7）, 333-346.
- 徐正洙（1984）『
』（2001）『
』太学社
- （2002）『
』月印
- （1996）『
』

付記

本稿は，日本学術振興会特別研究員奨励金によって行われた研究の一部をまとめたものである。

資料(アンケート用紙)

下記の場面で、あなたはそれぞれの相手に「話題のその人は元気だ」と伝える場合、あなたは相手にどのように言いますか。まず、[]には、話題の人を表す表現について使うと思う表現全てを書いてください。第三者を名前または愛称で表す場合は実際あなたが使う表現をそのまま書いてください。もし、相手の名前が浮かばない場合は、男性は田中一、女性は木下花子として考えてくださっても結構です。{ }については、あなたが実際使うと思うものを全て選んで該当する番号に をしてください。もし、項目の中に使う表現がない場合は(5)その他()に自分が実際使っている言葉をありのまま書いてください。

[場面1] 職場の上司にあなたの親について言う

[]	は	<table border="0"> <tr><td>(1) 元気(だ, だよ, よ).</td></tr> <tr><td>(2) 元気です.</td></tr> <tr><td>(3) お元気です.</td></tr> <tr><td>(4) お元気でいらっしゃいます.</td></tr> <tr><td>(5) その他()</td></tr> </table>	(1) 元気(だ, だよ, よ).	(2) 元気です.	(3) お元気です.	(4) お元気でいらっしゃいます.	(5) その他()
(1) 元気(だ, だよ, よ).							
(2) 元気です.							
(3) お元気です.							
(4) お元気でいらっしゃいます.							
(5) その他()							

[場面2] 職場の上司にあなたの友達についていう

[]	は	<table border="0"> <tr><td>(1) 元気(だ, だよ, よ).</td></tr> <tr><td>(2) 元気です.</td></tr> <tr><td>(3) お元気です.</td></tr> <tr><td>(4) お元気でいらっしゃいます.</td></tr> <tr><td>(5) その他()</td></tr> </table>	(1) 元気(だ, だよ, よ).	(2) 元気です.	(3) お元気です.	(4) お元気でいらっしゃいます.	(5) その他()
(1) 元気(だ, だよ, よ).							
(2) 元気です.							
(3) お元気です.							
(4) お元気でいらっしゃいます.							
(5) その他()							

[場面3] 親にあなたの職場の上司についていう

[]	は	<table border="0"> <tr><td>(1) 元気(だ, だよ, よ).</td></tr> <tr><td>(2) 元気です.</td></tr> <tr><td>(3) お元気です.</td></tr> <tr><td>(4) お元気でいらっしゃいます.</td></tr> <tr><td>(5) その他()</td></tr> </table>	(1) 元気(だ, だよ, よ).	(2) 元気です.	(3) お元気です.	(4) お元気でいらっしゃいます.	(5) その他()
(1) 元気(だ, だよ, よ).							
(2) 元気です.							
(3) お元気です.							
(4) お元気でいらっしゃいます.							
(5) その他()							

[場面4] 親にあなたの友達についていう

[]	は	<table border="0"> <tr><td>(1) 元気(だ, だよ, よ).</td></tr> <tr><td>(2) 元気です.</td></tr> <tr><td>(3) お元気です.</td></tr> <tr><td>(4) お元気でいらっしゃいます.</td></tr> <tr><td>(5) その他()</td></tr> </table>	(1) 元気(だ, だよ, よ).	(2) 元気です.	(3) お元気です.	(4) お元気でいらっしゃいます.	(5) その他()
(1) 元気(だ, だよ, よ).							
(2) 元気です.							
(3) お元気です.							
(4) お元気でいらっしゃいます.							
(5) その他()							

[場面5] 友達にあなたの職場の上司についていう

[]	は	<table border="0"> <tr><td>(1) 元気(だ, だよ, よ).</td></tr> <tr><td>(2) 元気です.</td></tr> <tr><td>(3) お元気です.</td></tr> <tr><td>(4) お元気でいらっしゃいます.</td></tr> <tr><td>(5) その他()</td></tr> </table>	(1) 元気(だ, だよ, よ).	(2) 元気です.	(3) お元気です.	(4) お元気でいらっしゃいます.	(5) その他()
(1) 元気(だ, だよ, よ).							
(2) 元気です.							
(3) お元気です.							
(4) お元気でいらっしゃいます.							
(5) その他()							

[場面6] 友達にあなたの親についていう

[]	は	<table border="0"> <tr><td>(1) 元気(だ, だよ, よ).</td></tr> <tr><td>(2) 元気です.</td></tr> <tr><td>(3) お元気です.</td></tr> <tr><td>(4) お元気でいらっしゃいます.</td></tr> <tr><td>(5) その他()</td></tr> </table>	(1) 元気(だ, だよ, よ).	(2) 元気です.	(3) お元気です.	(4) お元気でいらっしゃいます.	(5) その他()
(1) 元気(だ, だよ, よ).							
(2) 元気です.							
(3) お元気です.							
(4) お元気でいらっしゃいます.							
(5) その他()							

Abstract

A contrastive study on politeness of the reference terms for the third person and the predicates in Japanese and Korean

Hyunjung, LIM

JSPS Foreign Research Fellow, Graduate School

for International Development and Cooperation, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima, 739-8527, Japan

E-mail: lim@hiroshima-u.ac.jp

Kanetaka, HUKAMI

Associate Professor, Graduate School for International Development and Cooperation,

Hiroshima University, Higashi-Hiroshima, 739-8527, Japan

E-mail: khukami@hiroshima-u.ac.jp

This study aims at 1) describing the types and the uses of the reference terms for the third person, and 2) showing how the predicate forms change according to the politeness with which the hearers are treated. It is treated as the first step of a contrastive study on the way of expressions of politeness in Japanese and Korean,

It has been claimed that politeness tends to be expressed relatively in Japanese and absolutely in Korean. That tendency is confirmed in this study. There are, however, some cases which do not accord to it. Some different tendency can be also seen in this study. For example, “otoosan, okaasan” and “appa, eomma” are used for father and mother when the hearer is the speaker's friend, and the Korean “jal issseo” which does not express politeness is used for parents when the hearer is the speaker's friend. These cases have commonness in that the speaker is intimate with the hearer.

This study has also found that there are some differences in the expressions of politeness for parents between Japanese and Korean. For example, Japanese show more politeness to their seniors in the workplace than to their parents. Korean show more politeness to their parents than to the seniors in the workplace.